



株式会社シーティーイー

東京に本社を持ち、鹿角は「クリエイティブ制作センター」として、雑誌や求人広告の制作を行っている。20代を積極的に採用しており、青森、岩手など県外からの移住者も多い。



有限会社タカヤ電工舎

設立50年超の総合電気設備工事会社。官公庁の大型案件から一般住宅まで、あらゆる電気工事を行う。花輪のスキー場ジャンプ台電光掲示板や、鹿角の消防庁舎など、地元根付いた仕事を多く手がけている。

一つの建物を丸ごと 手がける達成感

仲澤 ●はじめまして、今日はよろしく願います。私たちは電気設備工事の会社です。「あかりのコンサルタント」として、官公庁のような大きな仕事から、一般住宅まで、あらゆる工事を請け負っています。シーティーイーさんはどんなお仕事呢？

黒沢 ●雑誌や求人情報誌の制作をしています。本社は東京なのですが、初代社長が東北出身ということで、東北に拠点を作りたいと考えていました。そこでご縁があった鹿角に事業部を立ち上げたのが12年前です。10名でスタートして、今では50名ほどになりました。

仲澤 ●そうなんですか。クリエイティブ系の仕事は鹿角では珍しいので、貴重な存在で

いずれは若手が 会社を支える 自立へ導くのが リーダーの役目



1 初対面のお二人でしたが、同じリーダーの立場ということもあり、すぐに話が盛り上がりました。 2 光量を測定する機器は、タカヤ電光舎で最も使われている仕事道具です。 3 シーティーイーが制作している雑誌。全国の人の目に留まるという点もやり甲斐につながります。

仲澤 ●鹿角の人はおとなしい人が多いけれど、実は秘めたプライドを持っているような気がします。ですから、まずは信頼して、任せてあげることが心掛けています。黒沢さんはいかがですか？

黒沢 ●きちんと仕事をやり遂げる社員ばかりなので、良いところをどんどん伸ばしてあげたいと思っています。ほとんどの社員がまったくの未経験で入社するのですが、経験がなくても、素直に学んでくれるとすぐに結果が表れますね。社長は普段東京にいますが、鹿角に来た時に誰かが褒められるのを聞くと自分のことのようにうれしくて！ いずれは私を超えるくらい成長してほしいですね。

仲澤 ●わかります！ 部下が褒

有限会社タカヤ電工舎
取締役営業部長
仲澤 淳

株式会社シーティーイー
鹿角事業部 課長
黒沢 美智子

対談

04

社員を間近で見つめる
リーダーの心構えとは

すね。

黒沢 ●今は東京の仕事がほとんどなので、これからは地元の仕事をもっと増やしていきたいと考えているところなんです。

仲澤 ●20代の若手の方が多いと聞きました。うちの会社にも20代の社員がいますが、まだ数名です。今後はもっと積極的に採用して、若年層を強化していきたいと思っています。電気工事というあまりイメージが湧かないのでしょうか。建物を一棟丸ごと担うというのは、スケールが大きくてやり甲斐のある仕事だと思うのですが。仕事の魅力をもっと積極的に発信していかなくてはいいですね。

黒沢 ●工事が終わって、建物に光が灯った時は本当にうれしいですね。私たちでいうと、雑誌が出来上がった時のような気分でしょうか。自分の仕事で雑誌という形になるとやはりうれしいもので、発売日に購入している社員もいるほどです。

どんどん成長して
いつか私を超えてほしい

黒沢 ●同じリーダーの立場として伺いたいのですが、社員の方々と接する時に、どんなことに気を配っていますか？

地元企業の方ともしっかりと交流を深めていきたいです。

仲澤 ●地元の方に「これからタカヤさんに任せるよ」と言っていたら、本当にうれしそうですね。私たちもますます地元根付いた会社として、鹿角に貢献していきたいです。

黒沢 ●鹿角の年長者の方々は、本当に面倒見が良いですね。いつも温かく包み込んでくださるようで。そんな環境に感謝しながら、これから恩返しをしていくつもりです。

仲澤 ●息子が祭りに参加したいと他の町内会に入ったのですが、新たな刺激を受けているようです。鹿角の中でも、まだまだつながりには生まれるはず。新しい場所へと足を伸ばして、良い関係を作っていきたいですね。

